

立ちどまらない保険。

MS&AD

INSURANCE GROUP

金融庁・CDP共催 「金融機関のスコープ3」オンラインセミナー

金融機関のスコープ3（カテゴリー15）の測定について

2021年7月7日（水）

MS&ADインシュアランスグループホールディングス

総合企画部財務企画室 紀 幸孝

立ちどまらない保険。

MS&AD

INSURANCE GROUP

I. 会社概要

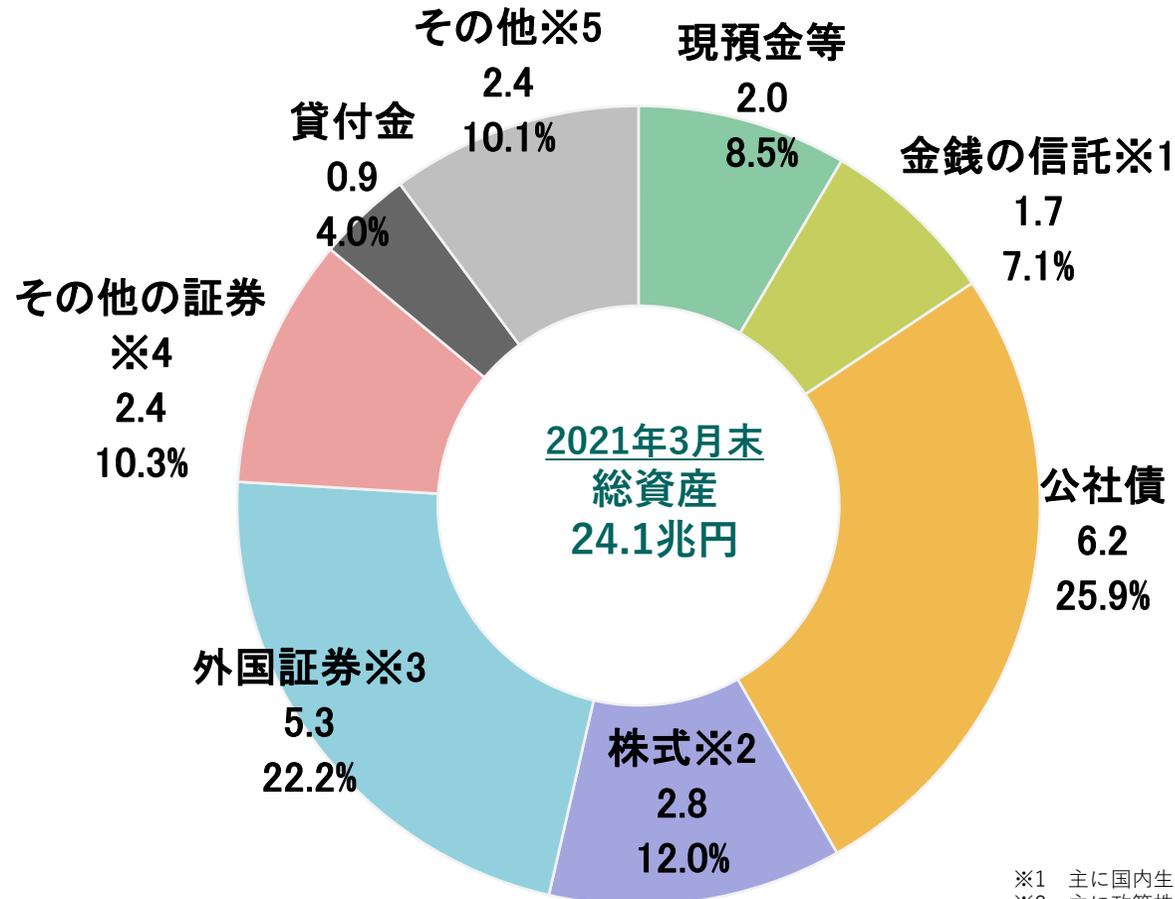
1. MS&ADインシュアランスグループの概要



2. 連結総資産の残高と資産別構成比(グループ全体)

資産別構成比(連結総資産ベース)

(単位：兆円)



- ※1 主に国内生保会社における負債対応資産
- ※2 主に政策株式および純投資株式
- ※3 国内保険会社における外国証券及び外国保険子会社における有価証券
- ※4 主に国内生保会社における特別勘定資産等
- ※5 主に有形固定資産、無形固定資産、のれん等

立ちどまらない保険。

MS&AD

INSURANCE GROUP

Ⅱ. スコープ3（カテゴリー15）の計測について

1. 気候関連財務情報の計測内容について

計測
対象

株式、債券（自社運用資産と外部委託資産）

計測
範囲

Scope1+2

計測
指標

GHG排出量、炭素強度、2°Cシナリオとの整合性等

活用
方法

対外開示

2. これまでの気候関連財務情報に関する取組み

2019年

- ESG投融资の重要項目として検討を開始
- 投資ポートフォリオの気候関連財務情報の計測・活用方法を調査

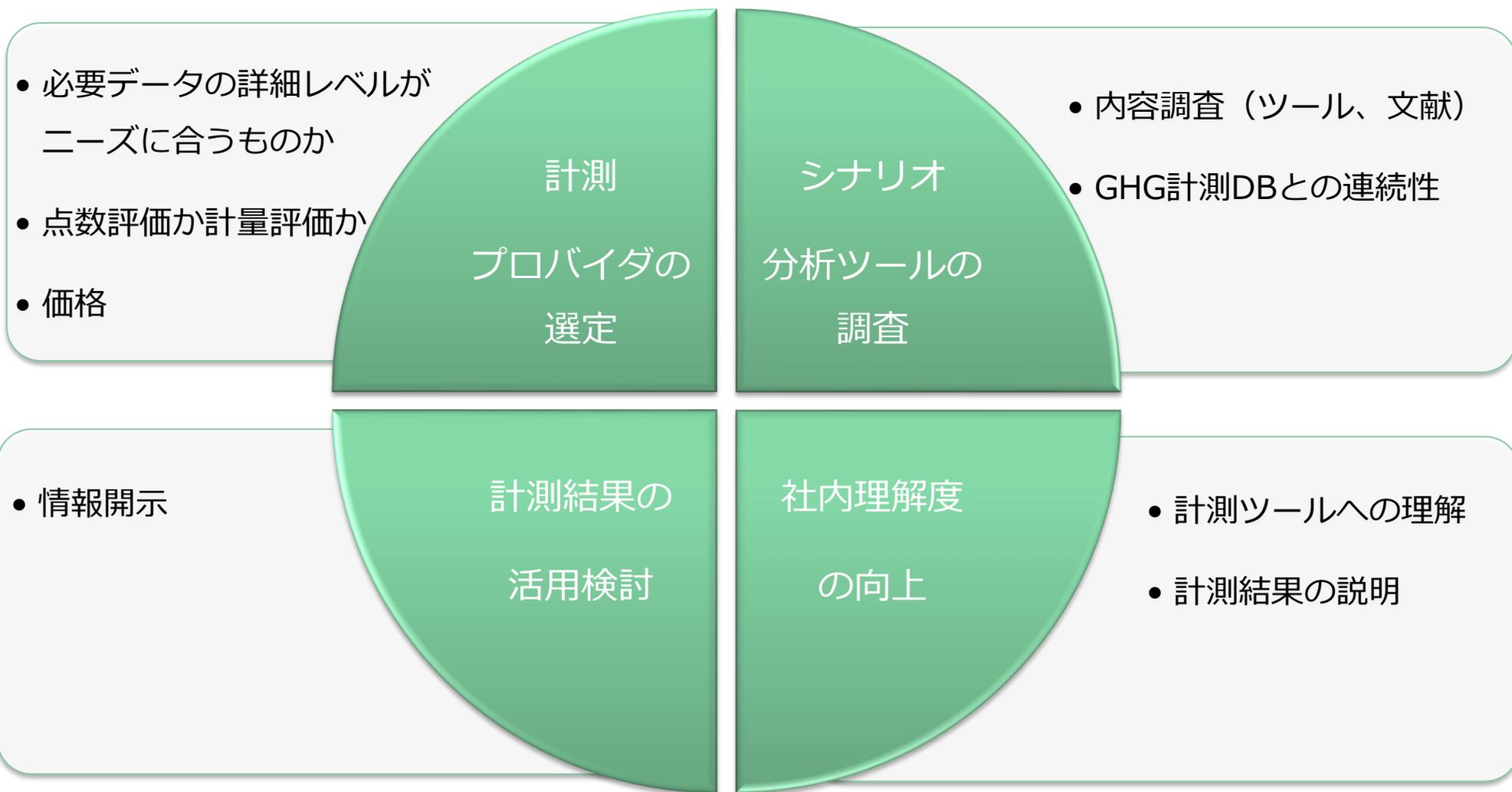
2020年

- TCFD提言の沿った開示情報の充実化
- 計測データの内容確認、分析、社内の理解度向上

2021年

- GHG排出量削減取組みにおける実務面との連携
- 排出量削減取組みの進め方や目標策定方法検討

3. 導入期に直面した課題（2019年～2020年）



4. 今後の課題（2021年～）

- 開示基準の標準化により、使用ツールの適応有無
- 推計値に対する企業側力の捉え方が不明

計測ツール

- 開示基準の要件定義の把握
- データ収集に労力と時間がかかる

データ整備

- 投資判断への組込み
- エンゲージメントに選出
- 目標設定

活用方法

- 複数の基準への対応が必要な場合が生じる
- 今後計測対象資産が拡大する可能性が高い

開示基準

5. 気づき

計測した気候関連情報について、結果を投資の現場と共有し全体の枠組みで活かす態勢整備が必要。

開示基準の標準化の動きによって、これまでの連続性を踏まえつつ、選んだ計測プロバイダーが新しい基準に符合するかは注意が必要。

対外開示することにより、外部評価機関等からの評価向上に繋がる。